United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
UNESCO Associated Schools

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：２０１３年４月～２０１４年３月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、ＨＰ等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

１．学校概要

学校名　気仙沼市立条南中学校

種別　☐保育園・幼稚園　☐小学校　☐小中一貫教育
☑中学校　☐高等学校　☐中等教育学校
☐教員養成　☐技術/職業教育
☐その他（　　）

住所　〒９８８－００５３
宮城県気仙沼市田中前４丁目８

E-mail：jyounan-jh@blue.ocn.ne.jp

Website：

児童生徒数：男子　１２１名　女子　１０１名　合計　２２２ 名
児童・生徒の年齢　12 歳～　15　歳

２．担当者　※公表しません

３．実施活動（複数選択可）

☐　地球規模の問題に対する国連システムの理解
☐　国際理解
☐　世界遺産
☐　平和・人権
☑　環境
☐　気候変動
☐　生物多様性
☐　エネルギー
☑　防災
☐　食育
☐　伝統文化
☑　そのほか（　地域復興　）

４．活動内容

（１）１年間の主な活動内容について記載願います。
※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

テーマ　「未来の気仙沼を支える人になろう」　～環境，防災，共生を通して～

	１年　環境	２年　防災	３年　共生
１学期 13時間	学年オリエンテーション 講話「気仙沼の環境」 講話「海･川･森のつながり」 調査「神山川の水質調査」	学年オリエンテーション 体験　「救急救命法」 体験　「サバメシ」 実験　「液状化現象」	学年オリエンテーション 講話「気仙沼の復興に携わる人々①」 講話「気仙沼の復興に携わる人々②」 ワークショップ①② 「身近な人へのインタビュー」 「中学生にできること」
	前期の反省 個人課題設定・後期学習計画の立案	前期の反省 個人課題設定・後期学習計画の立案	前期の反省 個人課題設定・後期学習計画の立案
２学期 22時間	課題設定，計画立案 「環境」「山・川」「海」の３講座に分かれて探求的な学習を行った。	課題設定，計画立案 災害時に備えた対応力として，サバメシ,救急救命を中心に実践力，他に伝える力，発信力を身につけさせた。	課題設定，計画立案 「地域交流・福祉活動」「情報発信」「演劇」の３講座に分かれ，地域交流を図った体験活動を中心に活動した。
	探求活動（実地調査・体験活動） まとめ，発表準備，リハーサル 講座内発表会（全員） 校内発表会（ワークショップ），文化祭発表，反省		
計	３５時間	３５時間	３５時間

（２）活動の評価の観点と方法

１）評価の観点

①課題発見能力　②計画力　③自主的活動　④コミュニケーション能力
⑤まとめる力　⑥表現・発表力

２）評価の方法

○アンケートの活用：事前・事後の意識調査
○評価票の活用　：「活動計画・実施に関する評価」（教師）
「総合的な学習の時間の自己評価」（生徒）
○取組・発表　：活動への取組み，活動のポートフォリオ
発表作品（文化祭，プレゼン等，講座発表会）

３　平成２５年度ＥＳＤの実践

（１）今年度の取り組みの変更や改善点

今年度は，「防災」という視点に主眼を置き，学年テーマに基づいて，災害発生時に対応できる力の育成を図る取組を目指した。防災に関する知識・技能はもちろんのこと，地域を知り，地域社会や人とのつながりを大切にした学習活動を展開することで，地域復興，未来の気仙沼を支える意識や実践力育ませ，地域復興の一助となる人材の育成を目指した。

１年：テーマ『環境』　◆講座：「環境」「山・川」「海」

・「海･川･森のつながり」について，水産試験所の方に講話をいただいた。

・神山川の水質調査や水中生物の生息観察を行った。

・各講座で探求したことを，校内発表会，文化祭で発表した。

２年：テーマ『防災』　◆講座：防災Ａ，Ｂ，Ｃ

・液状化現象のしくみについて，学び，模型づくりを行った。

・２年生全員が，普通救命講習修了書を取得した。

・各自でサバメシづくりをアレンジし，文化祭で実演を行った。

３年：テーマ『共生』　◆講座：「地域交流・福祉活動」「情報発信」「演劇」

・仮設住宅の方々とｸﾞﾗﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌや座談会など交流活動を行った。

・震災後，営業を再開した店舗を訪問し，名店マップを作成した。

・「共に生きる」をテーマに,台本から手がけ，演劇創作，発表を行った。

（２）実践の成果

①プログラムや活動の改善の視点から

今年度，テーマを大きく変更して２年目ということもあり，実践の累積を図った。昨年度の成果と反省をふまえつつ，より体験活動を重視したプログラムを行うことができた。

②生徒の変容（資質・能力，態度）の視点から

地域の方や講師の方々との交流を通して，マナーやコミュニケーション能力の向上が見られた。また，地域の一員として，地域のために何ができるかについて考えたり，防災と復興，共に生きることの大切さや難しさ，必要な力について考え，身につけていくことの重要性についてより一層意識を高めていた。

③教師や保護者，地域住民の意識の変容の視点から

地域の方に外部講師として協力をいただいたり，活動の趣旨をご理解いただき，訪問活動や交流活動にも快く賛同，ご協力をいただいた。今後も，つながり，地域との連携を大切にしながら活動の充実を目指していきたい。

（３）次年度に向けた課題と展望

２学期からの探求活動が多岐にわたっているため，３年間の系統性を考慮した全体計画の見直しと活動内容の精選を図っていく必要がある。また，学習の成果を保護者や地域の方への積極的な情報の発信とその方法についても検討事項である。

（２）活動時間について（下記から選択して下さい。）

☑ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
☐ 時間外活動の時間を使用
☐ ユネスコクラブの活動として実施
☐ その他（　　）